



Plus RMA



第4号 2021/1/1

一般社団法人 RMA

🏰 CONTENTS 🏰

| | |
|------------------------------|---------|
| 🏰 信頼と利他主義..... | 宮川 雅明 2 |
| 🏰 RMAの活動 -2019年度と2020年度中間報告- | 4 |
| 🏰 第1回 RMAフォーラム開催報告..... | 7 |
| 🏰 事務局だより | 8 |

信頼と利他主義

一般社団法人 RMA 理事
英国国立ウェールズ大学トリニティセントデイビッド(UWTSD) 大学院特定教授
経営コンサルティング会社代表取締役
宮川雅明

信頼の3つの真理

信頼を測るとするのは難しい話だ。しかし、信頼が経営に寄与することは誰も認めるところだろう。「7つの習慣」で世界的に有名なスティーブン・コビーは信頼には3つの真理があるといっている。真理1「信頼は経済の原動力である。」真理2「信頼は能力を高め、組織を変える。」真理3「信頼は学習できる。」

信頼が欠如している社会や組織では、スピードそしてコストに大きな影響を与える。チームワークや革新は信頼なくして発揮できない。そして、信頼は能力であって、心構えやスキルの総体であるので習得可能なものである。

普遍的価値としての利他主義

ジョエル・ピーターソン(ジェットブルー航空会長、スタンフォード大学経営大学院顧問教授)によれば、信頼の核となる意味は、一定の権限を進んで他者に委ねることといっている。普段、我々は信頼があることに慣れっこになっている。それが人間関係に如何に影響を及ぼすかに気付いていない。信頼は空気のようなもので、十分に足りている時は意識にさえ上がらないが、足りなくなると対処しないといけないと指摘している。(注1)

確かに、信頼というのは貨幣のようなもので、相手を思いやるほど、相手も自分のことを思いやってくれる。信頼という貨幣を使って人は互いに協力し合い、他者の利益を図り、結果的に皆が幸せになる。

コロナ禍において、最も重要なことは積極的利他主義であると、ジャック・アタリは言っている。(注2)

進化論で知られるデイヴィッド・スローン・ウィルソン(ペンシルバニア大学教授)は、「集団内では利己が利他に勝るが、集団間では利他的集団は利己的集団に勝る。それ以外のことは補足にすぎない。」と指摘している。(注3)

日本の経営は、石門心学、松下イズム、先義後利など利他は当たり前といえる。(注4)

信頼とは利他主義であり、社会の根幹をなすものだといったらよいだろう。内向きな忖度や利己心からの行動は、信頼を壊すものである。

信頼を築く3つの条件

話を経営に戻そう。コビーは、信頼は経済の原動力といった。ジョエル・ピーターソンは権限の委譲といっている。つまり、自分に代わって行動してもらうことである。そのためには、相手には3つの条件が全て満たさ

れていないといけなと指摘する。

- (1) 人格…これは利他の精神です。
- (2) 能力…信頼する相手が、あなたの利益を最大限に実現するだけの知性、能力、教育を身につけていること。
- (3) 権限…信頼する相手が約束を守れるだけの権限を委譲されていること。

以上の3つの条件が揃えば、信頼は自然に、殆ど自動的に育まれる。一つでも欠けると相手を信頼するのは難しい、としている。

この3つの条件はかなり厳しいといえる。日本には人徳という概念がある。十八不徳である。これは生き方を示してくれるもので、行動指針となる。この人格というのは、リーダーシップの中心的テーマでもある。リーダーシップ論で世界的権威の一人であるジョン・アデアは「優れたリーダーとなるために必要な7つの品格」を提示している。

P.F.ドラッカーは信頼について次のように述べている。「信頼とは真摯さへの確信。信頼をするということは、リーダーを好きになることではない。つねに同意できることでもない。リーダーの言うことが真意であると確信を持てることである。それは真摯さをという誠に古くさいものに対する確信である。」「厳しいプロは、高い目標を揚げ、それを実現することを求める。誰が正しいかではなく、何が正しいかを考える。頭の良さではなく、真摯さを大切にす。つまり、この真摯さなる資質に欠ける者は、いかに人好きで、人助けがうまく、人づきあいがよく、有能で頭が良くとも、組織にとって危険であり、上司及び紳士として不適格である。」

信頼のレベルはリーダーが決めるものだ。信頼のないリーダーができることは権力を用いるだけである。

(注5)

(注1)

ジェットブルー航空は1999年設立の格安航空会社。2001年、同時多発テロで多くの航空会社が経営危機に陥る中、堅調に成長した数少ない航空会社。他社も同様のビジネスモデルを真似するも失敗。現在も成長を続けている。

(注2)

ジャック・アタリ フランスの経済学者、思想家

(注3)

形質集団という概念を作った。形質的集団とは、血縁ではなく、彼らが利他的行動で相互に作用しあうことで運命を共有する集団のこと。

(注4)

江戸時代中期の思想家・石田梅岩を開祖とする倫理学の一派。現在も、企業道徳の一環として学ばれている。

(注5)

全体として「The 10 Laws of Trust」著ジョエル・ピーターソン、デイビット・A・カプランを参考。



RMA の活動

—2019 年度と 2020 年度中間報告—

一般社団法人 RMA 代表理事
井口 新一

会員の皆様におかれましては、平素より RMA の活動に格別のご理解並びにご支援を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大に伴って、2020 年 3 月下旬から試験所見学会や公開セミナーの開催延期又は中止並びに受講時期及び参加可能人数の変更のお願いなどをおこない、皆様にはご不便やご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。同時に状況をご理解いただきご協力をいただきましたことを感謝いたします。

RMA は、昨年来 COVID-19 感染拡大状況を把握しながら可能な対策をとり慎重に活動を続けてまいりました。また、2020 年 10 月からはオンラインセミナーを開始し、オンラインセミナー対象テーマも拡大してきております。会員の皆様には、今暫くご不便をおかけすることになるかと思いますが、ご理解のほどを宜しくお願いする次第です。

I. 2019 年度の活動と 2020 年度の活動（中間報告）

今年度から JABLAS 会総会は、制度変更により名称を「RMA フォーラム」といたしました。当初は 6 月に開催を予定していましたが、これも COVID-19 感染拡大の影響から開催を延期し、12 月 8 日にオンラインで第 1 回 RMA フォーラムを開催させていただきました。このフォーラムで、遅ればせながら 2019 年度の RMA 活動と 2020 年度活動の中間報告をさせていただきましたが、その概要を本誌でも報告させていただきます。

1) 2019 年度の会員状況

2019 年度（2020 年 3 月末時点）の会員数は、法

人会員 146 法人、個人会員 43 名、認定審査員会員 46 名でした。図 1 と図 2 にそれぞれ法人会員と個人・認定審査員会員数の推移を示します。

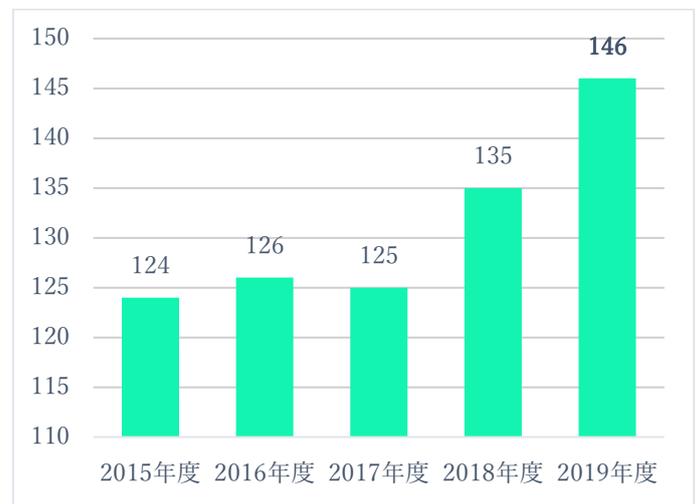


図 1 法人会員数の推移

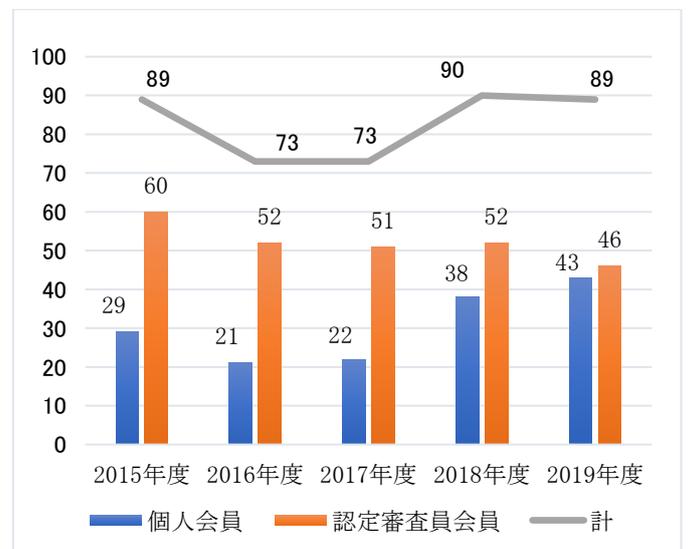


図 2 個人/認定審査員会員数の推移

法人会員数は、2018 年度から 11 法人増加し、2018 年度に引き続き増加傾向にあります。認定審査員会員数は減少傾向にありますが、個人会員数は法人会員数と同様 2018 年度に引き続き増加し 43 名となりました。

2017 年度に広範囲の分野・関係者の皆様が RMA 活動に参加していただきやすくなる観点から会費の見直しを実施しました。さらに ISO/IEC 17025 が 2017 年 11 月に改正され、この改正に対応して JIS Q 17025:2018 が 2018 年 7 月に発行されたことが、ここ 2 年間の会員増加につながっているのではないかと推測しています。

法人会員の地域分布を図 3 に示します。

地域分布は、数年来ほとんど変化はなく、関東地区が 63%と最大比率となっています。RMA は、関東地区以外からもより多く参加していただけるように今後もセミナー等の開催方法の多様化を検討していきます。

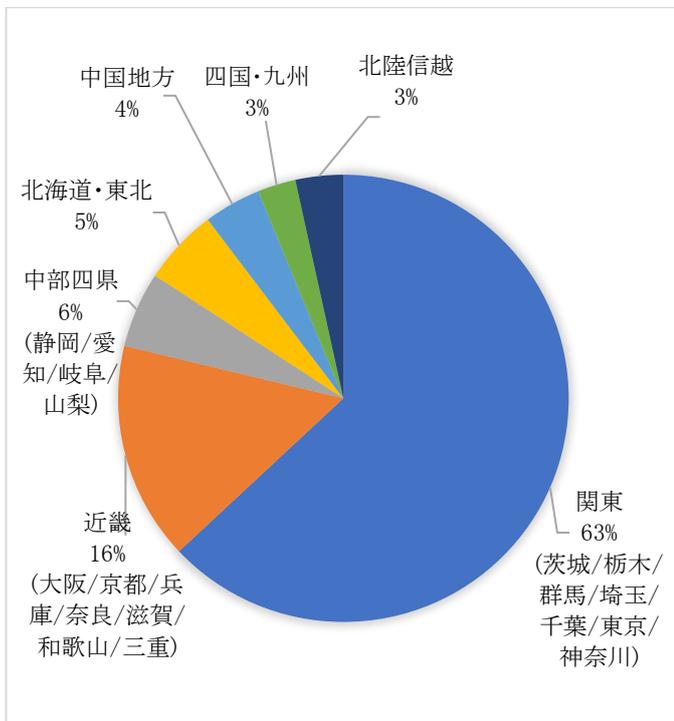


図3 法人会員の地域分布

2) 2019 年度公開セミナー等の活動

2019 年度の公開セミナー等は合計 64 を開催する計画でした。COVID-19 の関係から開催中止や

開催の延期、或いは参加セミナーの時期変更のお願いなどがありましたが、総計で約 600 名の皆様に RMA イベントに参加していただきました。2018 年度は合計 64 のイベントを開催し、約 800 名の受講者を迎えていますので、2019 年度は約 200 名の減少となります。この受講者数の減少は、ISO/IEC 17025:2017 版への認定移行準備としての改正规格要求事項の理解が一通り終わったことを示しているのではないかと考えております。

一方、ISO/IEC 17025:2017 の改正内容をより深く理解し、認定の移行に備えるという傾向は、コンサルティング或いは講師派遣セミナーを依頼された法人数にもでていていると考えております。



図4 コンサル/講師派遣セミナーご依頼法人数

図 4 は ISO 15189 他のコンサルティングや講師派遣セミナーをご依頼の法人数も含んでいますが、大部分は ISO/IEC 17025 関連のご依頼法人数です。

この分野では、RMA の認定審査経験豊富なコンサルタントや講師がご依頼元と打合せをさせていただき、ご満足いただける実施内容となるように務めてきました。

3) 2020 年度公開セミナー等の活動

2018 年度及び 2019 年度の公開セミナー他の活動結果を踏まえ、2020 年度の規格説明関連の公開セミナーは、規格要求事項の解説から要求事項を実際の業務にどのように適用していくかに重点をおいたセミナーへと移行しました。

2020 年度の公開セミナータイトルが、これまでの「ISO/IEC 17025:2017 規格解説セミナー」から「ISO/IEC 17025:2017 規格解釈と運用セミナー」と変更されているのは、この適用重視セミナーの実施を意図していることによります。

同様に、現在改正作業が進行中の ISO 15189 関連セミナーも運用面での情報提供を強化し、JABLAS News でも関連記事を連載で掲載すると共に、半日セミナーの「問題解決のための効果的な是正処置」と「ゼロから学ぶ運用セミナー及び臨床検査の統計学」を新設しています。

また、COVID-19 の感染拡大をうけて 2020 年度下期から Zoom を使用して 13 のオンラインセミナーの開設をいたしました。オンラインセミナーは従来の対面型セミナーと比較して長所も短所もありますが、Zoom の操作に習熟しオンラインセミナーならではの効率的で効果的なセミナーの提供を展開していきます。

4) 試験所見学会

2019 年度も 4 回の試験所見学会を計画いたしました。しかし、第 4 回の試験所見学会は COVID-19 の関係から延期をさせていただきました。

実施協力をいただいた会員の皆様には、試験所見学の意義に賛同いただき、また RMA の活動を支援していただいたことに対し改めて深く感謝申し上げます。また、第 4 回の試験所見学を受け入れていただいた会員様には、見学会は延期となったものの準備等で多くの時間と労力を裂いていただきましたことを深くお礼申し上げます。

2019 年度試験所見学会実績は次のとおりです。

2019 年 6 月：一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構 ふくしま医療機器開発支援センター様

2019 年 8 月：株式会社ブリヂストン 那須工場ブルーピンググラウンド様

2019 年 11 月：株式会社江東微生物研究所 中央研究所つくば様

2020 年度も 4 回の試験所見学会を実施したいと考えていましたが、COVID-19 の感染拡大状況を勘案し、実施を見合わせている次第です。

II. おわりに

2020 年度は、残すところ 3 ヶ月となってしまいました。続く 2021 年度は挑戦の年であると考えています。今年度の経験を糧に、2021 年度も会員の皆様のご協力を得ながら、ISO/IEC 17025 や ISO 15189 を中心とした研修機関として皆様のご要望、ニーズに十分お応えできるセミナー等の提供を実施してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第1回 RMAフォーラム開催報告

一般社団法人 RMA 事務局長
田中 隆

本年度4月1日にJABLAS会会員制度からRMAセミナー会員制度に移行して、初めての会員の集まりであるRMAフォーラム(制度移行に伴い名称変更)を12月に開催しました。従来、毎年6月に開催していましたが、今年は新型コロナウイルスの影響を受けて延期しておりました。結局オンラインで開催する運びとなりました。世の中の仕組みや従来の慣行が大幅に変更されていく中で、奇しくもRMAの制度移行も軌を一にすることになりました。

開催日時

2020年12月8日(火) 13:30 ~ 15:30

RMAフォーラムプログラム

1. RMA活動報告:井口 新一 (RMA代表理事)
2. 特別講演:岸本 勇夫 様 (日本認定機関協議会(JLAC)事務局、NITE 認定センター (IAJapan)所長)
・講演タイトル:国内外の試験所認定の現状



RMA代表理事井口新一のRMA活動報告の後、特別講演として、試験所認定機関連絡会(JLAC)事務局を代表して、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)認定センター(IAJapan)所長の岸本勇夫様より、

「国内外の試験所認定の状況」というタイトルで講演をしていただきました。

国内認定機関(JAB, VLAC, IAJapan)の活動状況、海外認定機関の動向など興味深いお話を伺いました。世界的な新型コロナウイルス禍での認定審査のあり方、フレキシブル認定に対する対応など、まさに現時点で進行している生々しい貴重な情報をお聞きすることができました。

全国で新型コロナウイルス感染拡大している中でも、北は北海道から南は九州まで32名の参加があり、場所を問わないオンライン手法の有効性を確認できたことは、今後のセミナー開催への貴重な示唆を思いも掛けず得られることになりました。

来年度は、セミナーのオンライン化をより一層進める所存です。これからもRMA活動へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

以上

事務局だより

2021年度のセミナー予定につきまして

2021年度のRMA公開セミナー(対面、オンライン共)の予定を現在事務局で計画中です。決定次第、RMAウェブサイトのトップページ(<http://rma.tokyo>)に掲載させていただきます。

COVID-19(新型コロナウイルス)の感染予防対策につきまして

- 対面式でのセミナー開催時、RMAでは以下の通り感染予防対策を実施しております。
 - ・セミナーで使用いたします備品はアルコール消毒いたします。
 - ・受講いただく皆様に除菌スプレーまたは除菌シートでの消毒にご協力いただいております。
 - ・極力距離を開けてご着席いただきます。
 - ・セミナー中、窓及び扉を開け換気をいたします。
 - ・職員はマスクまたはマウスシールドを着用させていただきます。
- セミナーをご受講いただく皆様へのお願い
 - ・セミナー受講の際には手洗い・うがい・マスクの着用等にご協力いただけますようお願い致します。
 - ・当日、少しでも体調のすぐれない場合は受講をお控えください。その際、事務局までご一報をお願い致します。

編集 後記

皆様 あけましておめでとうございます

昨年、この編集後記で新年のご挨拶をした際には夢にも思わなかった新型コロナウイルス感染症の流行が未だ続いております。

丑年は「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」というような年になるそうです。今の状況乗り越え、希望ある年となりますように。

RMAでは2021年もオンラインによるセミナーを積極的に開催する予定です。対面式と併せて皆様のご参加をお待ちしております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします

事務局 編集担当 中澤

セミナーのお申し込みは開催日の約3か月前から可能です。

お申し込みお待ちしております！



発行：一般社団法人 RMA

東京都品川区西五反田1丁目11-1

アイオス五反田駅前 502号

 03-6417-3400

 jimukyoku@rma.tokyo

<http://rma.tokyo>